

9月定例会一般質問

質問議員名 7番 木野山孝志 議員

【学力・学習状況調査について】

文部科学省は、7月29日、小学6年と中学3年の全員対象で本年4月に実施した2024年度「全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）」の結果を公表しました。

調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」となっております。

調査科目（学力テスト科目）は、通年は「小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。」となっております。

調査結果の公表に当たっては、

公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。

なお、平均正答数や平均正答率等の数値について、一覽での公表やそれらの数値により順位を付した公表等を行わないこと。

学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しない。

など、必要な配慮を行うよう要綱に注意項目が掲げてあります。が、(オ)教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの教育委員会の判断に委ねられること。とも有り、また前段に、「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し〜」とあるように、分析には数値による比較検討も必要かと思えます。

我が町の教育行政方針においては、学校教育の充実の中で第1点目に「確かな学力の向上」を掲げられ、児童生徒が将来にわたってたくましく生きていくためには「確かな学力」を身に付けることが必要であり、そのために

- ・各教科のねらいの達成、
- ・主体的な学びを促す教育活動の積極的な推進による、授業の質の向上、
- ・日頃から児童生徒の実態把握に努め、個に応じたきめ細やかな指導等、個別最適な学習

活動の充実、を図る。
とあります。

本町では、結果概要については、平成23年度から公表されており、その年、平成23年度の県平均通過率との比較では、小学校は「国語」「算数」、中学校は「国語」「数学」「英語」において、教科別ではいずれも県平均を上回っており、深く領域別に見ると若干課題が見られたとなっております。

以降、毎年結果を公表され、その都度本町生徒の学びに関する基礎・基本的定着度や学力レベルに関して全国・広島県平均との比較や各都道府県平均との比較、またアンケートなどの状況調査を通じて本町生徒の持つ生き抜く力の育成度や、特徴・独自性などをしっかりと掴み、課題やその解決に向け研究会の開催など鋭意努力され、本町の学校教育の充実が図られております。

本年度の結果はどうであったのか。

また、例年の課題との比較状況、今後の対応策についてもお伺い致します。

特に、本町での比較の面では

- ・令和3年度所為学校6年生は本年度中学校3年生なので小学校時点での課題への対応、
- ・コロナ対応による教育体制の変更による影響
- ・国（文科省）、県（教育委員会）ともに結果と対策を公表していますが、本町教育委員会の対応

以上よろしく願いいたします。

政宗教育長

令和6年度全国学力・学習状況調査については、小学校第6学年において、国語・算数、中学校第3学年では、国語・数学について4月に実施されました。

結果についてですが、

小学校では、平均正答率、国語65%、算数62%、

中学校では、国語58%、数学46%でした。

県平均と比較すると、

小学校では、国語－4%、算数－2%であり、2教科とも県平均を下回りました。

中学校においては、国語□0%、数学－6%であり、数学は県平均を下回ってお

ります。

これらの結果から、確かな学力の定着・向上を図ることは十分でなかったと捉えております。

現在、各学校において、学力の定着に向け、それぞれの教科について分析を行っており、課題の把握や対応策等明確にし、学校全体で学習指導の充実を図って参りたいと考えております。

木野山

結果について、広島県の平均正答率は全国平均と比して、どの位置にあるか。地元の「中国新聞」によると

「県内の公立校の平均正答率は、中学3年が数学で全国の公立校の平均を3年連続で下回った。小学6年は国語・算数ともに全国を上回った。

県内23市町別でみると、平均正答率の最も高かったのは、国語はいずれも「大崎上島町」で、中3が68%、小6は79%、中3の数学は「坂町」の69%、小6の算数は「海田町」の71%だった。」という事です。

ちなみに県内中学3年の国語は58%で全国の平均正答率と同じで全国15番目のグループ内にあります。

県内市町でみると本町の平均正答率は県内1位と比して、小6国語で14ポイント、算数は9ポイント、中3国語10ポイント、数学23ポイントいずれも下回っております。

これらの結果から、確かな学力の定着・向上を図ることは十分でなかったと捉えており、課題の把握や対応策を明確にし、学校全体で学習指導の充実を図る、とあります。

令和5年度決算報告にて頂いた本町教育委員会の「事務の点検及び評価報告書」においては、経営目標「個に応じた細やかな指導」、短期経営目標「確かな学力の向上」の項では、学力向上に向けた取り組み、具体的な取組・方策、評価、今後の改善策が具体的に報告されています。総合評価は「□」となっています。

令和5年度の全国学力テストの結果も報告されていますが、見ると、小学6年国語を除く小6算数、中3国語、数学、英語とも県平均を下回っております。

令和6年度の結果とあまり変わっていないのかな、とも感じました。

学力の向上に向け、今後具体的にどうされるのか。改めて方針をお伺いしたい。

ちなみに、先程引用した「中国新聞」の核心評論というコラムに気になる記事があったので触れてみます。

”全国学力テスト結果公表、全員参加の根拠を示せ”

「～、約4か月後に返される個票を見て、振り返り学習をするのは現実的だろうか。～中略、県教委に対策を求められている小学校校長は「子供は結果を一目見たら終わり。教員も授業が忙しく、正答率を把握するのが精いっぱい」と打ち明ける。

～ ～

政宗教育長

本町においては、各学校で分析を頂いていますが、当該学年についてはしっかりと分析することが必要になると思っております。ただその分析したことにつきましてさらには当該学年については改善するわけですが、そのみならず他の学年についても同様の事があるのではないかという事で、引き続き同様の取り組みを進めていきたいと考えております。

また学年等によって実態が違いますのでその学年の課題は何かという事も明らかにしながら取り組みを継続的に取り組むということが必要であると考えています。

町教育委員会と致しましては同時に研修の充実という事が上げられると思っております。

本町の強みは小中学校併せて7校ですので、例えば校長研修は各学校へ出向いて研修させて頂く機会がございます。その際に授業を見て回りますが参考になることを実際に観て頂く中で自校の中で取り入れていただく事とか、また本年度特に行っているのは、積極的に学校に出向いて授業を見させて頂く。5分とか10分ではなく45～50分通してみさせて頂く中で授業構成が分かりますので、指導助言を行いながら先生方の授業力向上に向けて取り組みをして頂く時間があればと思い、取り組んでいる。

1点目の現中学校3年生が小学校6年時点における課題への対応についてですが、国語では読むこと、

算数ではデータの活用に課題がありました。対策としては、

国語では、文章読解の取組やその中で読み取りや解答のポイントを解説するなど、

個の実態に応じた指導を行っております。また、

算数においては、複数の資料から必要な情報を取捨選択することや整理しながら課題を解決する問題等に取り組ませる学習を増やすなどの取組を行っております。

木野山

今の中学3年生が小学6年生の時は令和3年度ですが、3年度では全国的な課題として指摘されたのが、国語では基礎基本である読むこと、算数ではデータを活用することでした。

令和3年度は本町においては、小6において2教科とも全国平均を下回ったのは過去に例がなく、さまざまな分析がなされたようです。

本町においても同様な課題が指摘され授業の仕方の問題なのか、コロナ禍の中で落ち着いて授業ができる雰囲気であったのか様々な要因を探りながら分析を行いそれを生かす取り組みをされたと評価しています。

小6国語では県平均を3ポイント下回っておりましたが、中3になって県平均、全国平均と同レベルになり、改善されています。

小6算数では県・全国平均を2ポイント下回っていましたが、中3数学では6ポイントのマイナスとなりました。

教育専門家としてどのように分析されるか。

特に算数では小学4年までの基礎基本の習得が、最も肝心でそれが応用力に繋がると思うのですが。

政宗教育長

国語については読むことに課題がありました。おっしゃる通りです。具体的な取組については、一例としましては、目的に応じ文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける様な工夫をしております。また、事実と意見を分けて読み取り筆者の主張をつかむ指導等を行っております。また資料から必要な情報を取捨選択し、条件に合わせて読むことであるとかまた文章を書く活動等を積極的に取り入れたという事を行っている。

数学については、おっしゃる通り、基礎的な計算等に課題があるのではないかとと思いますが、例えば授業の初めに既習となる事項を取り入れた問題等を作成しながら授業の中で扱う問題数を増やす事によって基礎学力の定着の取り組みを行っています。

木野山

数学は基本が分かっていないと次の問題が解けない。

一人ひとりへの指導が出来ていない結果基礎が分からないまま過ぎていつまで経っても問題が解けない子供がいる
その点含めてどう思うか。

政宗教育長

子供一人一人に、どこが出来るのか分からないのか分かるのか逆にどこが出来ていないで分からないのか、やはりきめ細やかに把握する必要があると思っています。それを把握しながら授業展開するわけですが、例えば小学校であれば学年が変わると担任が変わっていきます。そのことをしっかり連携すること。また小学校から中学校に上がる時にやはりそこでも連携が必要であると思っています。

授業ですが、コロナ禍においては先程申しました様に前を向いた一斉の学習が主になる状況でした。ですからどちらかという受け身になる授業が展開されざるを得ない状況があったと思っています。現在はそういった状況が変わってきましたので多様な形態というものが出来ているという事です。また学習の中でグループ学習等もできない状況でしたので、例えば先生が教えるというところから子供たち同士で関わり合いながら教えあうとか問題を解いていくとかそういった学習も少しずつ増やしながら子供たち一人ひとりが分かるという授業を作って行きたいと思っています。その授業単位に向けて町教委も先程申し上げたように指導助言等を積極的に行ってまいりたいと考えております。

2点目のコロナ対応による教育体制の変更による影響については、例として、感染症対策をする上で、授業においても、班やグループでの学習を控え、全員前を向いての一斉授業が主でありました。そのため、自分の意見を周りの人に伝えることや、人の意見や考えを聞いて自分の考えを深める機会が減少するなど、協働的な学びを推進することが難しかったといった影響がございました。

木野山

私たち昭和の時代の小学校授業では、生徒も多かったからかも知れませんが班やグループ学習は無かったように思います。全員前を向いての一斉授業でした。

コロナのおかげで教育体制が昭和の時代に戻ったために協働的な学びが出来なかった。

当時の本町の生徒へのアンケート結果によると臨時一斉休業や運動会を行わないなど制限も多く、「学校が楽しい」との割合が極端に減少し、5割以上の子供たちが勉強について不安を感じておりました。

家庭学習が増え、本町特有の「対面」で授業をすることによる、個に応じたきめ細かな指導が出来たのかどうか。

タブレットの使用やオンライン授業はどうだったにか。

学力には影響はなかったのか。その点もお伺いしたい。

政宗教育長

子供たちにとっては一定時間学校に来られない時期もありましたのでその際にはICT 機器を活用するか紙媒体で問題を作成して子供たち一人ひとりに応じた作業を学校の方でも可能な限りやって頂いた。しかしながら、授業が出来るようになって一斉学習でしたので今求められている協働的な学びというのがその当時は十分出来にくかったと思っています。ですから対話ということがなかなか難しい状況でした。今は逆にそうゆうところが出来つつありますので、逆に言えば積極的にそういった活動をしていきたいと思っています。

先日見た中で、7校しかないので本町の子供は参考となることについてを小学校・中学校の先生方にも伝える機会が多いかなと思っています。その中でまず最初に問いをしっかり立ててそのことについてまず個人思考をさせて行きます。次に以前でしたらそれ上なかなか出来にくかったですけども現在は協働的な学びという事で個人思考したことをグループで一緒になって交流するという事を行っております。そのことをグループ全体で共有しながら自分の考えと比較しながらということの学習が出来ておりますので対話的な学びというものをこれからも積極的に行っていきたいと思っています。

3点目の結果と対策公表に係る本町教育員会の対応についてですが、本町においては、各小中学校のHPや学校便りなどにより結果及び対策等を公表しております。また、教育委員会の対策としましては、町教育委員会主催研修の充実や授業参観及び指導・助言を積極的に行い、授業改善に向けた取組をさらに進めてまいりたいと考えております。

木野山

今回のテストの結果で、全国市町とかなり差がついたと思います。

毎回9月に学力テストの結果を聞いてきたのは、今までは本町の結果は良かったからでもあり少し鼻高でした。

今回は、コロナの影響が少しは有るのか。それしか考えられないので対応はどうだったのか、気になる事だったので特にお聞きをしてみました。

本町の対応ですが、本町各中学校・各小学校の「ホームページ」を拝見しましたが、小学校は三和小、豊松小「学校自己評価表」のみ、他小学校は無し、中学校は、三和中は令和6年度分まで結果とグラフ、対策も詳しく記載されています、神石高原中は結果のみ令和5年度まで、表のみでグラフ・対策は無しでした。

「学校便り」では9月号が無いので確認できませんでした。

先程の回答と違いますが、今後出るのか。

政宗教育長

町教育委員会から各学校にどうしなさいという指示は特に行っていません。各学校の判断でございます。その中で学校の規模がそんなに大きくありませんので、個人が特定されないようにと色々な配慮をしながら、という事でございます。中にはHPに掲載する学校もあれば学校便り等で知らせる又は個人懇談などで具体的なところを説明させて頂く等々様々な形でお知らせをしていくという所です。

木野山

公表されていないと理解してよいか。

平成19年から始まった全国学力テストの結果報告については、本町では、冒頭で申し上げたように平成23年度から公表されています。確か福山市と同時期だったと記憶しております。当時は佐竹教育長。

当時は、結果の公表については、順位をつけることへの反対もあり、また本町のように生徒数の少ない町では、A君、B君の少数の子供の成績が平均点に大きく影響し本来の結果が表示されないのも意味がないなど、現場からかなりの抵抗がありましたが、公表に踏み切り今日に至っております。

「全国学力・学習状況調査」は日本の将来を担う子供たちに求められる基礎基本的な学力とその応用力、すなわち「確かな学力」の取得について調査するものです。そして成果と課題を分析し改善を図ることを目的に行われます。入学試験の様に殊更に難しい問題を出して順位をつけることが目的ではありません。

基礎学力とは昔から言われる、読み書きそろばん、国語・算数・数学のどの学習においても基礎となる知識、能力のことを指します。全国学力テストではこれに各年で理科と英語が加わります。

神石高原町で学んだ子供たちが一人の社会人として厳しい社会を生き抜くために必要な「基礎学力」と基礎学力が元となりついてくる「応用力」をしっかりと育成し、社会に送り出すことが我々に課せられた責任であると思います。

教育課程実施調査などで、①我が国の子供たちは判断力や表現力が十分に身につけていない。②勉強を好きだと思える子供が少ないなど学習意欲が必ずしも高くない。③学校の授業以外の勉強時間が少ないなど学習習慣が十分に身につけていない。など以前から指摘されています。

文科省も、基本的な生活習慣を身に着けている場合や、教員が創意工夫を生かした指導を行っている場合には得点が高い傾向が見られる。子供の実態や指導内容に応じて「個に応じた指導」を柔軟かつ多様に導入するなどの工夫を行う事により「わかる授業」を行い、子供たちの学習意欲を高めることが、「確かな学力」をはぐくむ上でも重要な視点である。と指摘しています。

私は、競争は良くないとイデオロギーで反対する思考ストップの考え方には違和感を覚えます。競争が健全で公正な形で行われ、生徒一人一人の成長を支え、その有益な側面を教育に生かすべきだと考えます。

教育環境と教育体制、そして、しっかりとした指導力が問われています。

町長もまちづくりの基本に「わが町ならではの教育」を挙げておられます。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」で有名な慶応技術大学を創立した、福沢諭吉先生も「学問ノススメ」で勉強の大切さを、明治の時代に強く国民に訴えられました。

「教育」は国造りのうえで「100年の大計」であります。

県内で消滅市町の一つに数えられたわが町。

産経新聞「正論」に、「人間は誰でもすべて、無限の可能性を秘めてこの世に生まれてくる。特に、幼児は天才である」。との名言が載っていました。

人には一人一人の人生があるように、我が町にも古代から今有る今日まで独特の

歴史と伝統、文化が息づき受け継いだものがあります。それをしっかりと生かしながら、もう一度「教育」の本質に立ち返り、人づくりに町の将来を託したらいかがでしょうか。

最後に、町長と教育長にどう思われるかお伺いし、質問を終わります。

入江町長

今回の学力テストの公表も進んで出ております。

小さな町ですからなかなかそういった数字もこういった数字なのだろうと思われる人も居るかもせれません。

私も数字がすべてではありませんが教育は非常に重要だと考えています。ですから油木高校の支援も行っていますし、教育は一丁目一番地という形で予算も注いでいるわけですが、もう少ししっかりと、いろんな技術とかそういったものも活用しながら行政側としてもコミットしていきたいと考えております。

政宗教育長

結果等については公表しないので、学校実態に応じながら、そういった処もしっかりと考えて行きたいと思っております。

自己学力の中に目的という事をしっかりと踏まえていく必要があると思っております。

その中で大事なのは子供たちの力をつける、分かるという授業を作っていく。

授業改善の必要があると思っております。

その中で特に今年度、私たちが意識していることについては、校長研修会であるとか各学校の指導助言の中に授業を作る4つの視点を先生方に求めております。

一点目は質の高い問いを設定する力

二点目は単元を構成する力

三点目はファシリテートする力

四点目はデジタル機器を活用する力

という事を各学校で教育をして頂いて居ますが7校ともこの4つの視点をしっかりと大事にしながら授業改善を進めて行こうと全面的に言っております。

そういった処を、先生方一人ひとりが力をつけて頂く事が子供の学力をつけていく事に繋がると今後も取り組んでいきたいと考えております。
